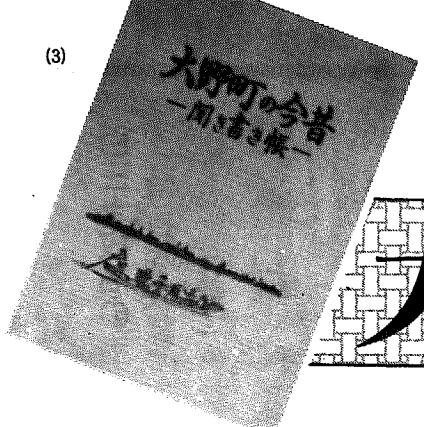
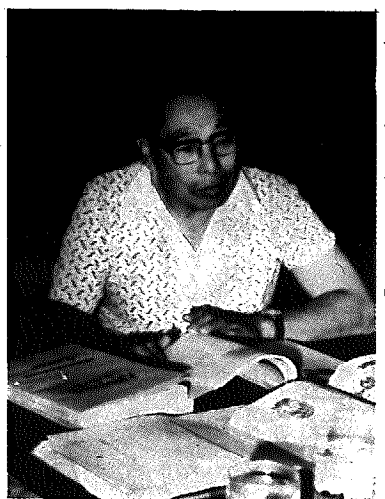


大野に生まれ、 生きてきた人たちの歴史



「生れ育った町の歴史を 何とか残したかった」 —— 宮田さんに聞く ——



▲「語っても語り尽くせません」と著者の宮田栄門さん

庶民の証言でつづった逸話集ともいふべき「大野町の今昔」をこの八月に発刊された宮田さんに、出版を思い立ったきっかけから、本ができあがるまでのいろいろなエピソードを伺ってみました。

—— 発刊おめでとうございませう。予定より厚くて大きいんですね。富田 ええ。三百ページ位です。書き始めたころは百五十ページ位の子定だったんですが、調べていくうちにだんだんと増えていきました。大きくしたのは、写真を大きくしたかったからです。

あまりに変わっていた諏訪町

「大野小で
歴史の授業」

—— 始まりは、「諏訪町鳥かん図」だったんですか。富田 そうです。去年の一月から諏訪町の自治会長を引受けたんですが、わからない家があるんですよね。調べてみると私が知っている昔とあまりにも大きく変わっていました。それで地図を描いたんです。

—— その後、「大野町鳥かん図」を描かれて、「大野町の今昔」を書かれるんですね。富田 「諏訪町鳥かん図」を大野小の渡辺校長にお見せしたら、大変喜ばれて大野町の全体図を書いたらどうかと言われました。そして、去年の十二月に「大野町鳥かん図」ができました。

—— 今年一月に大野小学校の教壇に立たれたとか。富田 北沢先生に頼まれて、三年生の社会科の教材に二枚の地図を教えました。恥ずかしかったです。

今年の四月から 執筆を始める

—— 「大野町の今昔」に取り組まれたのはいつからですか。富田 今年の初めぐらいですね。地図を描く為に町内の老人の方々がたから昔の話を聞いたんです。それを少しずつまとめていきました。本格的に書き始めたのは四月ごろからです。

—— 早朝と深夜に書かれたとか。富田 ええ。朝五時位から、夜は十一時位まで。なにせ、文章は苦手だったもんですから。原稿用紙で七百枚ぐらいでした。資料の収集とか、人の話を聞きに行ったりして仕事もだいぶ休んでしまいました。(笑)

—— それ程までに熱心にやられたというの。富田 老人の方がたからいろいろ話を聞いていくうちに、どうしてもそのお話を残しておきたい、忘れ去るにはあまりにも惜しいと思ったんです。それに調べ始めたからおもしろいんですね。北沢先生や町のみなさんからも協力してもらえました。やり始めたからやめられなくなりました。(次ページへ続く)

宮田栄門さん

「大野町の今昔」発刊



▲宮田さんが描かれたカット

大野諏訪町にお住まいの宮田栄門さん(五十四歳)が、このたび「大野町の今昔」聞き書き帳を出版され、八月十日(日)、宮田さん宅で出版記念会が開かれました。記念会には、浅妻康二新潟女子短大教授をはじめ、渡辺忠夫大野小校長、北沢昭松大野小教諭など関係者約十名が出席しました。

宮田さんは、昨年、諏訪町と大野町の鳥かん図を作製し、今年二月には大野小で大野町の歴史を教えました。(詳しくは広報一八三号)その宮田さん、「古老から話を聞いていくうちになんとか本にし



▶ノノ川の渡し船(昭和の初めか?)

て残しておきたくなった」と、今年春から、執筆を始めました。鳥かん図作成で協力してもらった人たちが、大野小の北沢昭松先生の奥さんのミチさんの内助の功もあって、予定をはるかに上回る約三百ページB5版(広報紙大)の立派な本ができました。

県庁勤務のかたわら消防団の仕事も兼ね、さらに昨年一月から諏訪町の自治会長を務めるなど、実に多忙の宮田さんですが、「今やっておかなければ」と精神的に取り組みました。そのかいあってか、仲町の小山呉服店に眠っていた数十の古文書を見、明治以後、中ノ口川にかかった数枚の橋の再現、大野の誇るべきスポーツの名選手の記事など、実に様々な歴史を集録することができました。

この貴重な本の費用には、長年務められた消防団の退職金をあて、編集は、北沢先生が担当。また、長谷川四郎さん(興野)が古い写真を複写。新潟市の郷土史研究家小熊雅雄さんが古文書の解説に努力されました。さらに、カットや絵は宮田さん自身の手によるものです。

北沢先生の依頼で今度はこの本を教材に、大野小で授業を担当するとか。「母親参観日に親御さんの前でやってくれ」と言われたんです。その本は、ただけは勘弁してもらいたい。」と宮田さん。それでも、この本が、子供たちの教育に役立つとあって、教室に貼っておける大野町の年表を作る予定です。

なお、宮田さんのご好意でこの本は、各小学校、中学校、公民館などに寄贈されています。

「大野町の今昔」は、黒埼町の郷土誌としては、越後木場城「板井風土記」「木場郷土誌」(いずれも絶版)、「板井風土記」(いずれ「木場郷土誌」は総合体育館の図書室にあります)に続いて四冊目ですが、このような本は、たいへん貴重ですので、ぜひ一読されるとよいと思います。特に、数多く収められた写真には、誰かしら知っている人が載っていることでしょう。

町内の書店でも発売されていますが、売切が予想されますので直接宮田さん宅に購入を申込みたいとのこと。

「大野町の今昔」購入希望の方は、黒埼町諏訪町二九三〇 ☎(〇二五三)七七一三一九七 宮田栄門さんまでご連絡を。一冊、千五百円です。